

# 一戸 呉六 (いちのへ・ごろく)

## 1、プロフィール

詩人。昭和6年頃から詩作活動を始め、第2次「北」「府」第3次「北」等を創刊、県詩壇の発展に寄与した。その詩は風土に根ざした津軽のエスプリを表現している。

<生没>

1907(明治40)年5月18日 ~ 1997(平成9)年7月21日

<代表作>

詩集『津軽の靈歌』

<青森との関わり>

北津軽郡三好村(現五所川原市)に生まれる。津軽に居住し、昭和から平成の長きにかけて、詩作活動をした。

## 2、作家解説

詩人。筆名一戸洋一。明治40年5月北津軽郡三好村藻川(現五所川原市)に生まれる。昭和2年3月、青森県立商業学校を卒業。帰郷し家業の商業に従事する。昭和6年後半、「サンデー東奥」に詩を発表、新進詩人としてのスタートをきる。7年8月詩誌「青嵐」を創刊。第2次「北」の同人となり、8年詩誌「北」「椎の木」等に詩を発表。4月、「北」終刊後、12月、植木曜介・船水清と詩誌「府」を創刊。9年、「東奥日報」「府」などに詩を発表。10年5月、青森県販売購買利用組合連合会に勤務、青森市に移住。12月、児島次郎・西本淳一等と詩誌「夷」創刊。14年6月、中国大連市の満州輸入株式会社に勤務。詩誌「鵲」「満州詩人」「新文圏」に詩を発表。20年5月、大連市で臨時召集により歩兵第266連隊に入隊。22年1月、佐世保港上陸復員する。4月、青森県職員となる。11月、一戸謙三・高木恭造と北詩人会を結成し、発起人となり、機関紙として月刊「北リーフレット」(12月)、季刊「北」(23年6月)創刊。27年以降、県広報誌「県政の歩み」、同人誌「奔流」

「羊眼」等に作品を発表。40年8月、第1詩集『津軽の神々』(津軽書房)を刊行。41年6月、青森県詩人協会会長に就任。44～45年にかけて「月刊あおもり」に作品を発表。46年8月青森県詩人協会会長辞任。11月第2詩集『津軽の靈歌』(青森書房)を刊行。49年11月、県文化賞を受賞。53年1月、県褒賞を受賞。3月、第3詩集『津軽の秩序』(青森書房)を刊行。これ以降、『現代詩集成』『年刊詩集(青森県詩人連盟刊)』等に作品を発表。63年10月、第4詩集『津軽の愁訴』(東京出版)を刊行。平成5年12月、第5詩集『津軽の悠妙』(水星社)を刊行。9年7月、弘前市において逝去。一戸は『津軽の神々』のあとがきに「私は永遠にひとりの津軽人である。また、私の運命も、つがるの神々に大きく強く支配されてゐるのだ」と記している。

### 3、資料紹介

#### ○『津軽の靈歌』

図書

1971(昭和46)年11月3日

184mm×215mm

第2詩集。昭和46年11月3日発行。限定250部。発行所青森書房。挿絵福島常作。内容は、戦前の12篇、戦後昭和22年～45年までの自選の誌30篇を収録。詩人一戸の詩のスタイル・詩精神の全貌を概観できる。